皮膚・排泄ケア領域における災害対応ガイドブック

一般社団法人 日本創傷・オストミー・失禁管理学会

著者一覧（五十音順）

芦田　幸代	大分大学医学部附属病院
石川　　環	岩手県立大学大学院博士前期課程
大網さおり	独立行政法人地域医療機能推進機構仙台南病院
岡田　依子	社会福祉法人京都社会事業財団京都桂病院
小野寺直子	岩手県立中央病院
片岡ひとみ	山形大学医学部看護学科
佐々木多恵子	公益社団法人地域医療振興協会公立黒川病院
佐藤　　円	石巻市立病院
高橋　真紀	東北大学病院
日野岡蘭子	旭川医科大学病院

序　　文

近年、日本各地で記録的な災害が発生しています。1995年に発生した阪神・淡路大震災後からボランティア活動への関心が高まり、災害が発生すると「何かできることはないか」、「何か役にたちたい」と感じる人が増えていると思います。

本学会では、2011年に発生した東日本大震災をきっかけに、オストメイトの方、寝たきりの方、創傷のある方への対応を中心に、組織的な対策を実行できるよう、災害対応委員会を発足させ活動して参りました。これまでに、災害発生時に本学会が組織として展開すべき災害支援活動に関する基本事項を定めた災害時対応マニュアルを作成しています。今回は、皮膚・排泄ケア認定看護師（以下WOCナース）や皮膚・排泄ケア領域に携わる会員向けに、災害発生時に行う院内・避難所での対応、および日頃からの災害に備えた対応に関するガイドブックを作成いたしました。冊子は、東日本大震災の際に、自らも被災しながら被災地にて救援、支援活動を行ったWOCナースや被災地近隣および被災圏外からボランティア活動に参加されたWOCナースが実際に経験した内容をもとにまとめました。この冊子が、実践に役立つものと硬く信じております。災害はいつどこで生じるか、わかりません。過去のWOCナースの体験を糧として、万が一の災害に備えて、皆様お一人お一人がご活用いただければ幸いです。

最後に、本冊子をまとめるにあたり、様々な経験について語って頂いた岩手県、宮城県、福島県、青森県、秋田県、山形県並びに被災圏外からボランティア活動に参加されましたWOCナースの皆様、また、本学会の災害対応活動に賛同しご支援を賜りました会員の皆様に心より感謝申し上げます。

一般社団法人　日本創傷・オストミー・失禁管理学会
理事長　真田　弘美

皮膚・排泄ケア領域における災害対応ガイドブック作成にあたり

2011年３月11日に発生した東日本大震災は甚大な被害をもたらしました。特に沿岸部では大津波によって壊滅的な被害をうけ、長期間にわたりライフラインが途絶えました。また、医療機関、医療関係者も被災し、重度の褥瘡発生を含む褥瘡対策が問題となりました。

被害の大きかった街の一つである宮城県気仙沼市には、震災後、医療支援隊に参加していた皮膚・排泄ケア認定看護師（WOCナース）の活動をきっかけに、褥瘡対策支援を行うため、本学会よりWOCナースを派遣して頂きました。各方面からの支援が減少していく状況の中、本学会の東北支援プロジェクトの活動として、宮城県気仙沼市と隣接する岩手県気仙地区へ継続支援を行うことになりました。2011年９月～2013年３月、岩手県気仙地区では気仙地域リハビリテーション広域支援センターのメンバーと連携し、月１回の頻度で、気仙地区の介護老人保健施設を中心に、主に褥瘡ケアの実践指導、研修会を開催しました。宮城県気仙沼市では、現地の訪問看護師と同行訪問し、在宅褥瘡ケアのアドバイスを行うとともに、在宅関連者の方を対象に勉強会を開催しました。両県の活動は、宮城県、岩手県のWOCナースがシフトを組み、交代で実施しました。この活動を行うにあたり、現地への交通費等は、本学会の皆様から頂いた義援金を活用させて頂きました。義援金にご協力頂きました会員の皆様に深く感謝申し上げます。

東北支援プロジェクトの活動として、上記２地区への支援の他、皮膚・排泄ケア領域における災害対応ガイドブック作成案がもちあがりました。今回の震災では、東北６県に在住するWOCナースは所属施設内外において、さまざまな役割を担っていました。そこで、震災で得た多くの体験を、今後の災害対策に活用できないか、という提案を頂き、東北６県、主に岩手県、宮城県のWOCナースを対象に、震災後の院内外での活動や皮膚・排泄ケア領域の活動について意見交換をする機会を設けました。その場では、WOCナース同士が顔を合わせることで、「一人じゃないんだ」、という安堵感を感じると共に、様々な経験を語り聞くことにより、自然に涙が流れたことを記憶しております。これら貴重な体験や皆様から頂いた意見を集約し、本ガイドブック作成に至りました。なお、本ガイドブック作成ならびに全会員への配布は、皆様からの義援金を活用させて頂きました。改めて皆様に深く感謝申し上げます。

今回の支援活動を通じ、ネットワークの重要性や顔の見える関係性構築の重要性について再認識することとなりました。また、支援活動期間中においては、本学会の皆様から暖かい支援とご協力を頂いている事が、被災地へ支援に向かうWOCナースの支えになっていたことを申し添えたいと思います。なお、本ガイドブックはWOCナースが実際に経験した内容をもとに意見を集約しており、WOCナースとして対応すべき内容を主軸にまとめておりますが、皮膚・排泄ケア領域に携わる会員の皆様に広くご活用頂けますと幸いです。

最後に、本ガイドブック作成にあたりご協力頂きました多くの方々に深く感謝申し上げます。

一般社団法人　日本創傷・オストミー・失禁管理学会
災害対応委員会　委員長　片岡ひとみ

目　　次

Ⅰ．本学会からのボランティア派遣

1．WOCナースとして本学会から派遣される場合 …… 1

Ⅱ．災害への備え

1．自施設内での準備 …… 2
2．ストーマ保有者への指導 …… 2
3．訪問看護師、介護支援専門員への指導 …… 4

Ⅲ．発災後の対応

1．自施設が被災した場合
　1）発災後～72時間（フェーズ１超急性期） …… 5
　2）発災後72時間以後（フェーズ２急性期） …… 6
2．近隣の施設が被災している場合（自施設被災なし） …… 7
3．被災地圏外（自施設被災なし） …… 7

Ⅳ．支援物資送付時の注意

1．個人または施設から送付する場合
　1）送付用の箱の準備 …… 8
　2）ストーマ装具を送付する場合 …… 8
　3）スキンケア用品、ドレッシング材等を送付する場合 …… 9

Ⅴ．その他

1．災害ボランティアの規範（内閣府、災害ボランティアの「お作法」参照） …… 10
2．災害ボランティアのべからず（内閣府、災害ボランティアの「お作法」参照） … 10
3．その他 …… 10

Ⅰ．本学会からのボランティア派遣

1．WOCナースとして本学会から派遣される場合

1）ボランティア活動について

・ボランティア活動はあくまでも自発的な活動であり、自己の利益を目的とするものではなく、強制されるものでもなく、個々の自由意志によるものである。

2）事前準備

・災害支援に関する研修の受講
各都道府県看護協会が実施している災害支援ナース養成研修を予め受講しておく。

3）発災後の手続き

・被災地への派遣は早くても**発災後72時間以降**となる。
・学会ホームページにてボランティア募集が掲示されるので、内容を確認し手続きを行う。
・ボランティア参加に関しては、上司または所属施設長の許可を得る。
・本学会からの派遣依頼状を確認する。

4）被災地でのWOCナースとしての規範

・現地の治療方法を尊重する。
・最良の治療方法を主張せず、情報提供を行い、ゆっくりと意識改革を行う。
・特別な事をするのではなく、現地で継続可能な方法を検討する。
・水が不足している状況では洗い流すことはできないため、ケア方法や使用物品に十分留意する。
・ケア方法や使用物品を含め実施した内容について、次にくるボランティアが理解できるように引継ぎ書など文書を作成する。
・個人情報に留意する。

Ⅱ．災害への備え

1．自施設内での準備

1）物品に関する準備

・エアマットレス台数の把握
・体圧分散マットレス数の把握（緊急時のみ使用する災害対応マットレスを含む）
・ストーマ装具保管状況の把握
・失禁対策物品（オムツ、CIC用のカテーテル等）の在庫、保管場所の把握

2）スタッフナースへの指導

・電力停止によるエアマットレスの緊急対策方法
・電力停止による電動ベッド緊急時取り扱い方法
・水が使用できない場合のスキンケア方法

3）　体制に関する準備

・発災時には皮膚・排泄ケア領域（例えば電力の長期不通によるエアマットレス使用不可や活動性低下等による褥瘡発生の危険度が高くなること、ストーマ装具の在庫が少ないストーマ保有者やCIC使用者が装具受給希望のため来院する可能性があること等）の対応が必要である旨、災害担当となる部署あるいは災害担当になる可能性の高い部署と予め確認をしておく。ただし、発災後の自施設での活動については災害対策本部の指示に従い、WOCナースとしての活動が可能になった場合に実施する旨を申し添える。

2．ストーマ保有者への指導

1）災害に備えての準備

①　非常時持ち出し袋の準備

約10日分の装具（**最低でも10日分**の準備が望ましい）、装具交換時に必要な物品、水不要のスキンケアグッズ等をできれば２カ所に配置する。発災後はストーマ用品セーフティネット連絡会（OAS）などの災害対策支援がある。そのため、概ね10日で何らかの装具が受給できる旨を説明する。

＊ストーマ用品セーフティネット連絡会（OAS）による緊急時のストーマ用品供給
「OAS災害時対応の手引き」より抜粋（平成27年４月１日制定）

【OAS会員】

アルケア㈱、コロプラスト㈱、コンバテックジャパン㈱、ソルブ㈱、㈱ホリスター、村中医療器㈱

ア）緊急時ストーマ用品無料提供

緊急時（災害発生から約１ヶ月間）において、ストーマ用品を無料提供する。

イ）無料提供対象メーカー・品目

OAS会員が販売しているストーマ用品全般（在庫状況によっては提供できない場合もあり）

ウ）ストーマ用品提供対象者

災害救助法適用の市町村内被災ストーマ保有者で、家屋の倒壊等によりストーマ用品の

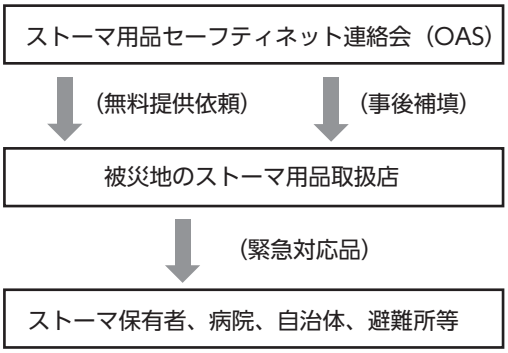
持ち出しや入手が困難なストーマ保有者、並びに入手が困難な避難所、病院等の施設等。

エ）ストーマ用品の受け取り方法

原則として被災地内のストーマ用品取扱店に依頼し、在庫の中からできうる限りのストーマ用品を対象となるストーマ保有者や施設等へ提供する。ストーマ用品取扱店からストーマ保有者や施設への提供方法や配送方法は、状況によって異なるが、ストーマ用品取扱店、ストーマ保有者の団体、自治体、医療従事者などが決定する。

ストーマ用品取扱店に供給に十分な在庫がない場合は、OASで必要量のストーマ用品を確保し、可及的速やかに被災地へ搬送する。ストーマ用品の搬送には、道路事情等の障害が起こりえる。

オ）ストーマ用品の供給ルート



【備　考】

- ✓ OASより被災地のストーマ用品取扱店に緊急時保有している在庫が被災ストーマ保有者に提供できるか確認
- ✓ 対応可能な場合、取扱店から緊急対応品として提供
- ✓ 被災地のストーマ用品取扱店が対応できない場合、OASよりストーマ用品を搬送する方法を検討
- ✓ 緊急対応品は無償提供品であり、在庫状況や被害状況により、希望に添えない場合もあり
- ✓ 緊急対応品は、各社負担による無償提供品であり、現地からの希望を考慮するが、在庫状況や被害状況等により、希望に添えない場合もあり

カ）災害時のOAS活動に関する情報入手先

ストーマ用品受け取り等の情報は下記ホームページより確認

日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会　URL:http://www.jsscr.jp/

日本オストミー協会　URL:http://www.joa-net.org/

② 支援物資流通時期、流通方法、支援内容（使用中の装具が支給されるとは限らない）などを指導する。

③ 非常用携帯カード等にストーマの種類、ストーマサイズ、使用装具製品名、製品番号等を記載し携帯するよう説明する。

④ 水が使用できない場合のスキンケア方法を指導する。

⑤ 発災後に供給されるストーマ装具は面板のカットが必要となることを想定し、面板カット方法（カット不要の面板使用者）を指導する。

2） 発災後の行動について

・発災後、**ストーマ保有者または家族**から**可能な時期**に装具の在庫状況やケア方法等で困ったことの有無について、ストーマ外来担当者または受診施設のWOCナースに連絡するよう説明する。

＊発災後、ストーマ装具がない、ストーマケアで困った場合の対応として説明する。

＊病院側から連絡するのではなく、ストーマ保有者自身の危機管理対策の一つの啓発として説明する。

＊病院内では皮膚・排泄ケア領域以外の様々な対応が求められる。そのため、WOCナースから連絡するのではなく、ストーマ保有者または家族から連絡しやすいよう、発災後の掲示方法などが充実する旨説明する。

・ストーマ装具がない、ストーマケアで困った場合等で医療施設を受診したいが、通常通院している施設へのアクセス方法がなく不可能な場合、近隣施設（具体的な施設名を提示するのが望ましい）での対応が可能であることを説明する。

・発災後、ストーマ装具を受け取るために病院を訪問した場合、病院玄関等に掲示される内容を参照し病院担当者に連絡するよう説明する。発災直後は病院が混乱している可能性が高いため、使用可能なストーマ装具が全く無い場合を除き、少し時間が経過してから病院を訪問するよう説明する。

3．訪問看護師、介護支援専門員への指導

1）災害に備えての準備

・発災後はストーマ装具の備蓄がない、ストーマ装具が入手できない、長期間の停電によるエアマットレス底付や不活発による褥瘡発生リスクの増加等に対する対応が必要である旨を説明する。

2）主な指導内容

・災害時のエアマットレスの底突き対策

・ストーマ装具支給体制

・水が使用できない場合のスキンケア方法

Ⅱ．発災後の対応

自施設の災害対策本部の指示に従う。
WOCナースとしての活動が可能になった場合、速やかに以下の行動を実施する。

1．自施設が被災した場合

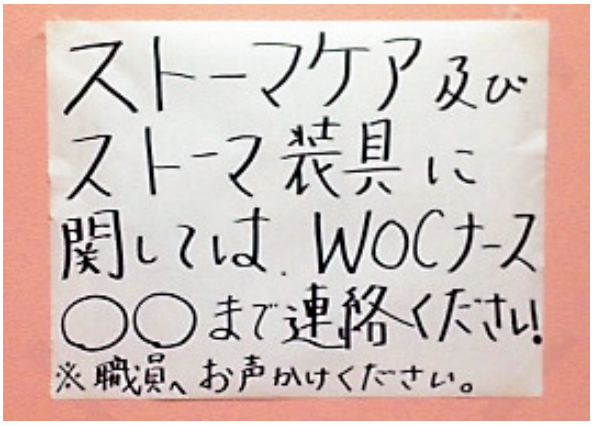
1）発災後～72時間（フェーズ１超急性期）

①　オストミー

ア）院内にWOC領域の窓口を作成し、明示する。

・病院玄関など訪問者がわかりやすい場所を検討する（写真１）。

〈写真１：掲示案〉



イ）院内でWOC窓口を作成したことを災害対応会議などで報告し、院内職員に情報提供する。または、災害対応会議に参加する上司に報告してもらう。

ウ）院内のストーマ装具保管状況の確認

エ）ストーマ装具配布方法の確認

・在庫状況にもよるが、１名のストーマ保有者に対し、可能であれば１週間～10日分を配布する。

・WOCナース以外も配布できるよう、可能であれば単品系、二品系装具別に一人分ずつ小分けにして準備する。

②　創傷

・院内のエアマットレスの使用状況を確認する。

・電力を必要としない体圧分散マットレスの使用状況について確認する（日常生活自立度の低い被災者用として、会議室、廊下、ホール等で使用する場合を想定し、在庫状況を確認し、運びだせるように準備する）。

③　失禁

・失禁対策用品（オムツ、CIC用カテーテル等）の在庫、保管場所を確認する。

・CIC用カテーテルは被災者からの問い合わせがある可能性があるため在庫量、配布可能の有無を確認する。

2）発災後72時間以後（フェーズ２急性期）

①　自施設内での対応

ア）水が使用できない場合

・褥瘡ケア、ストーマケアについて、ふき取りタイプの用品を用いたスキンケア方法を実施するよう促す。

イ）ストーマ用品セーフティネット連絡会（OAS）からの支援物資

・被災地のストーマ用品取扱店または都道府県リーダーからの連絡を待つ（あるいはリーダーに連絡する）。

②　自施設の外（避難所）での対応

＊所属施設によっては、近隣の避難場所訪問を行う場合がある。

ア）WOCナースが同行した場合にはストーマ保有者、褥瘡保有者、CICで困っている人がいないか確認する。所属施設から医療チームが訪問する際には、情報を聞いてきてもらうよう依頼する。

イ）避難所では避難所代表者に会い、皮膚・排泄ケア領域の情報について確認する。状況によって、代表者から保健師、看護師を紹介してもらい情報収集する。

ウ）褥瘡対策

・既に褥瘡を保有しており、避難所での対応が難しい場合には早めに治療可能な施設への移動を要請する。

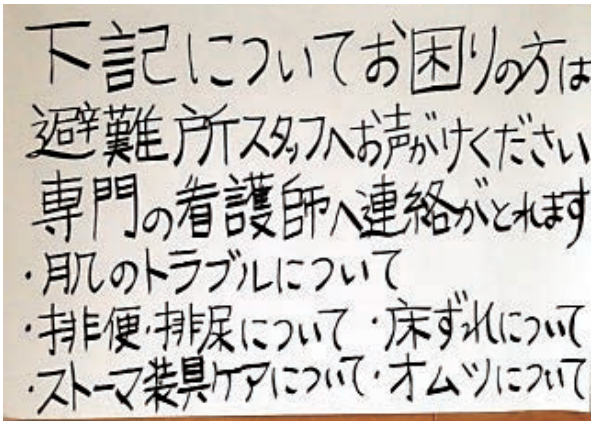
・不活発状態が続くことにより、褥瘡発生リスクが高くなるため、注意が必要であることを説明する。

エ）ストーマ保有者

・ストーマ保有者がストーマ装具不足で困っていないか、避難所で装具交換する場所があるか確認し対応策を提案する。

・保健師、看護師からストーマ保有者に関する情報を得られない場合もある。その場合代表者と相談し、避難所内へのポスター掲示を依頼する（写真２）。

〈写真２：掲示例〉

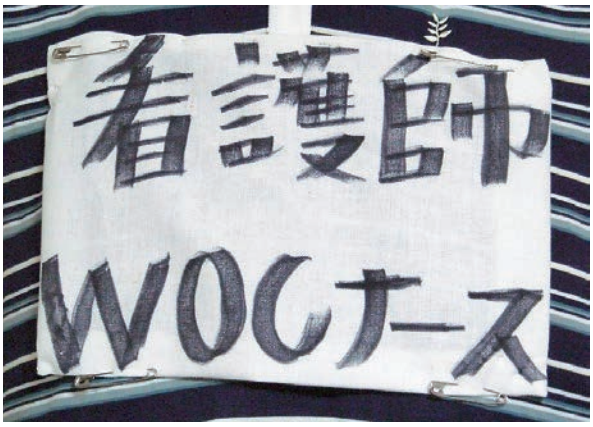


・避難所内からストーマケアや褥瘡ケア等について相談があった場合に連絡がとれるよう、WOCナースの連絡先を代表者または保健師、看護師に伝達する。

・日中は片付けや捜索のため、避難所を不在にする人もいるため、対応方法について検討する。例えば、状況に応じて、必要な物品を預け、次回訪問時の連絡、夜間対応の可否について確認する。

・避難所訪問時の服の背中や胸の表示（WOCナースなど）についてチーム内で相談する（写真３）。

〈写真３：掲示例〉



③　その他

ア）TVのテロップ、ラジオ放送によるストーマ装具配布案内に対する対応

・都道府県の福祉課、医療整備課、オストミー協会等の依頼を受け、TVのテロップ、ラジオ放送を通じ、ストーマ装具配布可能施設が案内される場合がある。放送後に問い合わせが増加する可能性が高いため、対応できるよう準備する。

【テロップ例】

人工肛門・人工膀胱用装具配布施設；○○市内　○△×病院、□○×病院・・・

2．近隣の施設が被災している場合（自施設被災なし）

①　被災地区の情報収集を行う。

②　被災地への派遣に関しては院内規定に則る。あるいは、自施設での活動をよく考え被災地へのボランティア派遣を検討する。

3．被災地圏外（自施設被災なし）

①　学会からの指示に従い、可能であればボランティアを申し出る。

②　支援物資の送付等を検討する。

Ⅲ．支援物資送付時の注意（主にストーマ装具、スキンケア用品）

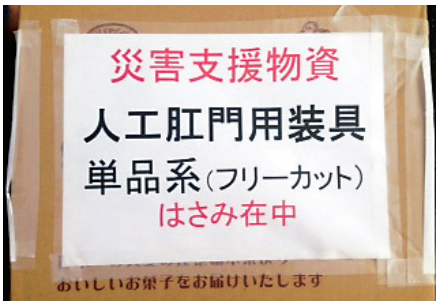
1．個人または施設から送付する場合

1）送付用の箱の準備（ダンボール箱）

・大きさは一人が容易に持ち運びできる大きさが望ましい。
・側面四面に内容物についてわかりやすく標記する（ダンボール箱は積み重ねられるため、どこから見てもわかるようにする）（写真４、５）。

〈写真４：四面記載例〉

〈写真５：記載例〉



・送付時に受取人がわかる場合には、受取人の個人名を記載する（多くの支援物資が送付されるため、個人名がないと使用許可がもらえない場合がある）。
・病院以外ではストーマという言葉を知らない人が多いため（特に非医療従事者）、全く関係ない部署に転送され、医療従事者の手元に届かない場合もある。また、様々な物資が山積みにされるため（写真６）、必ず四面にストーマ装具（人工肛門、人工膀胱用装具）と記載する。

〈写真６：送付された物資が山積みされている倉庫、部屋〉

2）ストーマ装具を送付する場合

・ストーマ用品は混在せず、一つの箱に１種類とする。例えば単品系のみ入れ、人工肛門用装具単品系と記載する。二品系装具の場合には、面板とストーマ袋をセットにし同じ箱に入れる。
・自由開孔面板を送付する場合にははさみを同封し、はさみ同封に関して箱の外面に明記する（例示写真参照）。
・ストーマ装具は使用頻度の高い装具を送付する。古い型式やほとんど使用しない等の理由で施設内に在庫となっている製品は送付しない（送付されても使用頻度の低い物は使用しづらいため、不良在庫になる可能性が高いので注意する）。

・アクセサリー類は別の箱に入れる。できるだけ同種類の物をまとめて梱包する。
・洗い流さなくてもよい、ふき取りタイプのスキンケアセットがあると良い（写真７）。

〈写真７：スキンケアセット例〉

【内容例】
・皮膚保護クリーム、撥水性クリーム
・皮膚清浄クリーム（水不要）
・消臭剤
・剥離材
・清浄綿またはウェットティッシュ
・ガーゼまたはティッシュ　　など

3）スキンケア用品、ドレッシング材等を送付する場合
・用品は混在せず、一つの箱にできれば１種類とする。例えば、ハイドロコロイド、ポリウレタンフォーム等。
・箱の外に内容物について明記する。

Ⅳ. そ の 他

1．災害ボランティアの規範

（内閣府、災害ボランティアの「お作法」参照）

・復旧や復興の主役は被災者である。ボランティはそれをサポートする存在であるという原則を忘れないように心がける。また、被災地や被災者、地元行政、ボランティアセンターなどに対しては、あなたの善意を活かす場を作ってくれたことに感謝する。
・防災ボランティアは、水・食料・常備薬・適切な服装・保険等、必要な備えをして自己完結を原則に被災地に入る。被災者・被災地やボランティアセンターに負担をかけない。
・仕事がなくても、ボランティアニーズを無理やり探し出すのではなく、被災地／被災者のことをよく理解するようにする。
・睡眠時間や疲労などに留意し、健康の事前チェックに努め、不調になったら早めに活動をやめる勇気を持ち、けがなどで被災地の負担にならないようにする。
・被災地でのボランティア活動に参加する際には、自分の行動計画を周囲に事前に説明してから出かける。
・仲間とよく話し合い、一人で仕事をかかえこまない。
・災害の規模、種類、地域などにより、災害ボランティアセンターの運営などに違いがある。あくまで、被災した現場が中心であることを忘れないようにする。
・災害ボランティアセンターの核となる現地スタッフは可能な限り休む時間を持つことに努め、周りは理解し支える。

2．災害ボランティアのべからず

（内閣府、災害ボランティアの「お作法」参照）

・自分のできることを見極め、例え被災者に頼まれても、自分や周囲を危険に巻き込むような仕事は引き受けない。
・防災ボランティアは、被災者の立場をできるだけ理解し、自分の判断を押し付けるようなことは避ける。
・ボランティアは非日常的な活動であるが、被災地／被災者は早期に日常の生活を取り戻すことが求められている。その日の振り返りの意見が深夜に及んで周囲に迷惑をかけたり、高揚した気持ちを押さえるための適量のアルコールが過剰になるようなことがないようにする。
・日常のボランティア活動に比べて、よりリスクが高いのが災害ボランティアの活動である。自らのケガだけでなく、心ならずも被災地や被災者、他のボランティアに損害を与えてしまうことをできるだけカバーするために、自らボランティア保険に加入する。
・必要以上に自分の経験を振りかざすことは避ける。

3．その他

・支援物資を整理するボランティア派遣
現地では実際の医療、看護活動に多くの時間を費やすことが多い。しかし、ストーマ装具等は専門家や知識を持っていないとストーマという名称からは使用目的が不明である。そのため、災害の規模に応じて、ストーマ装具等の支援物資整理のボランティアを検討する。
・役所、障害福祉課との連携
ストーマ保有者や家族から役所や障害福祉課に問い合わせが入る場合も多い。役所では対応しきれないことが多いため、連携方法について検討する。

皮膚・排泄ケア領域における災害対応ガイドブック

2015年３月31日発行

編　集　　一般社団法人　日本創傷・オストミー・失禁管理学会
　　災害対応委員会、ワーキンググループ
発行者　　真田　弘美
発　行　　一般社団法人　日本創傷・オストミー・失禁管理学会
　　〒169-0072　東京都新宿区大久保2-4-12
製　作　　株式会社　大 風 印 刷
　　〒990-2338　山形市蔵王松ヶ丘1-2-6